物質名	グリセリン=トリア	'セテート			DB-8
別名	グリセリン三酢酸、グリセリン三酢 酸エステル、トリアセチン、トリア セチルグリセリン		構 造 式 CH ₂ OCOCH ₃		
CAS 番号	102-76-1		CHOCOCH ₃		
PRTR 番号	-		I CH ₂ OCOCH ₃		
化審法番号	2-753				3
分子式	$C_9H_{14}O_6$		分子量	218.21	
沸点	258 ~ 259		融点	- 78 ¹⁾	
蒸気圧	2.48×10 ⁻³ mmHg (25 、実測値) ²⁾		換算係数	1 ppm = 8.92 mg/r	m ³ (25)
分配係数(log P _{ow}) 0.25(実測値) ³⁾		水溶性	$5.8 \times 10^4 \text{ mg/L}$ (2	5 、実測値) ⁴⁾	

急性毒性

動物種	経路	致死量、中毒量等	
マウス	経口	LD_{50}	1,100 mg/kg ⁵⁾
ラット	経口	LD_{50}	3,000 mg/kg ⁵⁾

中、長期毒性

- ・ラットに 0、40、200、1,000 mg/kg/day を交尾前 2 週から雄には計 44 日間、雌には哺育 3 日まで強制経口投与した結果、40 mg/kg/day 以上の群で体重、臓器重量、組織、血液検査の結果に影響はなかった ⁶⁾。この結果から、NOAEL を 1,000 mg/kg/day とする。
- ・雄ラットに 0、 $20 \sim 60\%$ の濃度で 90 日間混餌投与した結果、20% よりも高い濃度で体重増加の抑制がみられ、60%群では体重増加の著明な抑制及び死亡を認めたとの報告 70% がある。著者らはこの結果から NOAEL を 20% (10,000 mg/kg/day) としているが、試験結果の詳細は不明である。
- ・ラットに $2,220 \text{ mg/m}^3$ を 90 日間 (6 時間/日) 吸入させた結果、毒性徴候はなく、体重、臓器重量、血液成分、組織への影響はなかったとの報告 $^{8)}$ がある。

生殖、発生毒性

・ラットに 0、40、200、1,000 mg/kg/day を交尾前 2 週から雄には計 44 日間、雌には哺育 3 日まで強制経口投与した結果、40 mg/kg/day 以上の群の親ラットで交尾、受胎率、黄体数、着床数、出産率、妊娠期間、分娩及び哺育行動等に影響はなく、仔でも出生仔数、出生率、新生仔の 4 日生存率、体重への影響がなく、外表系奇形や剖検での異常もみられなかった 6 。この結果から、親ラット及び仔の NOAEL を 1,000 mg/kg/day とする。

ヒトへの影響

- ・皮膚を軽度に刺激し、皮膚に付くと発赤を生じる%。
- ・健康なボランティア 20 人に本物質の 50%濃度を皮膚塗布した試験では、非常に軽度の反応 のみであった $^{10)}$ 。また、ボランティア 33 人に 20%濃度を皮膚塗布した試験で皮膚感作性は なかった $^{11)}$ 。

発がん性

IARC の発がん性評価:評価されていない。

許容濃度

ACGIH	-
日本産業衛生学会	-

暫定無毒性量等の設定

経口ばく露については、ラットの中・長期毒性試験から得られた NOAEL 1,000 mg/kg/day(最高用量でも影響なし)を採用し、試験期間が短いことから 10 で除した 100 mg/kg/day を暫定無毒性量等に設定する。

吸入ばく露について、暫定無毒性量等は設定できなかった。

引用文献

- 1) O'Neil, M.J. (ed.) (2001): The Merck Index An Encyclopedia of Chemicals, Drugs, and Biologicals. 13th ed. Merck and Co., Inc. Whitehouse Station, NJ.
- 2) Daubert, T.E. and R.P. Danner (1989): Physical and Thermodynamic Properties of Pure Chemicals: Data Compilation. Hemisphere Publishing Corporation. Washington, DC.
- 3) Hansch, C., A. Leo and D. Hoekman (1995): Exploring QSAR Hydrophobic, Electronic, and Steric Constants. American Chemical Society. Washington, DC.
- 4) Riddick, J.A., W.B. Bunger and T.K. Sakano (1986): Organic solvents: Physical properties and methods of purification: Techniques of chemistry 4th Edtion, Vol 2, Wiley-Interscience, New York, NY.
- 5) US National Institute for Occupational Safety and Health Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS) Database.
- 6) 化学物質点検推進連絡協議会(1998): グリセリン三酢酸エステルのラットを用いる反復経口毒性・生殖発生毒性併合試験. 化学物質毒性試験報告. 6: 127-147.
- 7) Shapira, J., A.D. Mandel, P.D. Quattrone and N.L. Bell (1969): Current research on regenerative systems. Life Sci. Space Res. 7: 123-129.
- 8) Fassett, D.W. (1967): Corporate Health and Environment Laboratories, Eastman Kodak Company. Unpublished data. Cited in: OECD (2002): SIDS Initial Assessment Report for SIAM 15. Triacetin. CAS No:102-76-1.
- 9) IPCS (2006): International Chemical Safety Cards. 1203. Triacetin.
- 10) Matthies, W. (1988): Henkel KGaA, Report No. 880716. Cited in: OECD(2002): SIDS Initial Assessment Report for SIAM 15. Triacetin. CAS No:102-76-1.
- 11) Epstein, W.L. (1976): Report to RIFM, 27 May, unpublished data. Cited in: OECD(2002): SIDS Initial Assessment Report for SIAM 15. Triacetin. CAS No:102-76-1.